

富良野市新庁舎建設検討委員会 会議録（第3回）

1. 日 時 平成30年11月26日（月） 午後1時30分～午後5時00分
2. 場 所 富良野市役所 大会議室
3. 出席者 委員：小川委員長、萩原委員、佐藤委員、岡本委員、後藤（英）委員、
原田委員、菊地委員、中村委員、相蘇委員、木原委員、
稲葉委員、山下委員、若杉委員、後藤（正）委員、吉田委員、
亀淵委員 （計16人）

事務局：藤野財政課長 高田財政課主幹
委託業者(北海道日建設計) 2名
4. 欠席者 小玉副委員長、大玉委員、坂本委員、青木委員、太田委員
5. 傍聴者 8人（うち報道機関2人）
6. 会議資料 会議次第
現状と課題の整理（前回配付資料）修正資料（資料1）
公共施設等適正管理推進事業債の対象事業に関する資料（別紙1）
新庁舎の位置について（資料2）
新庁舎建設検討委員会「部会の構成と検討事項」（別紙2）
事業手法の比較検討（資料3-1）
想定事業スケジュール（資料3-2）
建物の構造と耐震に関する資料（別紙3-1）
省エネルギー手法に関する資料（別紙3-2）
新庁舎建設事業NEWS Vol. 1
新庁舎建設事業NEWS Vol. 2
7. 会議内容（要旨）
別紙のとおり
8. その他 欠席委員からの意見書

会議内容（要旨）

1. 開 会

【事務局】 第3回富良野市新庁舎建設検討委員会を開催する。出席数は16名、欠席は大玉委員、坂本委員、青木委員、太田委員、小玉副委員長の5名である。

2. 委員長挨拶

【委員長】 きょうの第3回目も重要な議案があるが、よろしくお願ひしたい。

3. 報告事項

(1) 経過報告

【委員長】 まず、(1)の経過報告を事務局から報告願う。

【事務局】 第2回検討委員会開催後の経過を報告。主に職員ワーキンググループの活動で、先進地視察、合同会議、利用団体との意見交換を実施している。

(2) 前回の会議内容確認

【委員長】 次に、(2)前回の会議内容を確認をお願いする。

【事務局】 第2回検討委員会の会議録は、各委員に送付、確認後、市ホームページ公表済み。前回の報告では、先進地視察報告、職員ワーキンググループや市民ワークショップの開催報告、業務委託プロポーザル企画提案内容を説明。議事では、庁舎と文化会館が抱える課題を整理。建てかえの必要性について、改めて比較検証したが、必要性の確認は今回の議事に持ち越しとした。

委員意見として、検討委員会の検討状況の周知や市の財政についてのわかりやすい説明があったので、新庁舎建設事業NEWSを作成し、市役所の行政情報コーナー等で閲覧、配布。今後も市民周知に努める。

【委員長】 各委員から質問等はないか。

【委員】 市民への周知方法で、新庁舎建設事業NEWSは広報に載るという理解でよいか。

【事務局】 新庁舎建設事業NEWSは、配付し、手にとって読むことも効果的だと考えている。広報にもほぼ同じものを掲載する予定。

【委員】 現状では、ホームページなどで情報を得ている方は圧倒的に少ない。アナログ的な手法で市民に情報を伝える必要がある。一番届くのは広報だ。特集を組み広報の中に入れるべきと考えるが、いかがか。

【事務局】 基本計画案ができたときにはかなりのページを割いてお知らせし、ご意見をいただこうと考えているが、検討段階の経過はこれで周知したい。

【委員】 NEWSを広報に折り込む方法もある。公開できる情報はなるべく多く市民に開示するべきだと思えるので、その努力をお願いしたい。

【委員】 新しい紙媒体を広報の中に折り込めばいいと思う。広報の発行に見合う部数を印刷して入れるだけならやりやすいので、そうして大いに市民に知らせてほしい。

【事務局】 検討させていただきたい。

4. 議 事

(1) 基本計画(案)の検討について

ア) 現状と課題の整理について(資料1)

【委員長】 次に、議事の(1)基本計画(案)の検討について、前回に引き続き、現状と課題は前回資料記載のとおり確認済みのため、庁舎建てかえの必要性について比較検証を協議する。まず、前回の資料の修正について説明願う。

【事務局】 資料1により修正箇所説明

- ・事業費のイニシャルコスト比率とランニングコスト比率を、単独建てかえの建設工事費を100とした場合の合築の削減効果に記載。イニシャルコストで約7.5%から10%、ランニングコストで二、三割程度の削減効果あり。

【事務局】 別紙1により説明

- ・事業費の起債について、単独建替は、市町村役場機能緊急保全事業(交付税措置率70%の30%)のみ。合築の場合は、市町村役場機能緊急保全事業に加え、文化会館部分は集約化・複合化事業(交付税措置率50%)も対象となる。
- ・比較検証する上で、国の交付税措置が大きなポイント。建てかえをするにはどのタイミングでも多額な費用がかかる。いかに市の持ち出しを少なくするかは重要。国の財政支援は平成29年度から32年度まで。平成24年度から検討を進めてきたが、国から財政支援を機に検討が加速した。
- ・国の緊急財政支援は、熊本地震により、多くの自治体で行政機能が立ち行かなくなったことによるものだが、災害はいつ起こるかわからない。今後人口減少社会で後世に負担を残さないよう、いち早く整備することが必要であり、合築、複合化での建てかえを考えた。

【委員長】 各委員から意見等はないか。

【委員】 地方交付税は、世界で一番難しい算定方式でブラックボックスだといわれている。地方交付税は新庁舎建設分を上乗せされたことが明らかになるのか、それとも、全体に包含されるのか、確認したい。

【事務局】 地方交付税の計算の段階で、起債分が入って計算される。

- 【委員】 地方交付税の中で新庁舎建設分が財政措置されていることが多くの市民に理解できるようにならなければ、それを公表できる体制もつくる必要があると思うが、いかがか。
- 【事務局】 補足資料を出せるし、積算根拠も示すことはできる。
- 【委員】 文化会館と庁舎を一緒に建てかえることはいつ考えたのか。
- 【事務局】 基本構想の検討段階。庁舎も文化会館も老朽化が進んでおり、今後の人口減少社会を考え、施設の最適配置を進めるため、近隣の行政施設、類似する施設の再編も検討し、文化会館との複合化を前提とした。
- 【委員】 文化会館にエレベーターをつけてほしいという要望があり、去年ついたが、無駄な出費というか、見通しが甘かったと思うが、どうか。
- 【委員】 文化会館は、市役所、スポーツセンターも含め、平成24年度から、いつの段階で建てかえるかの検討に入ったが、そのときは国の補助等もなく、いつ新しく建てられるかの目途がなかったため平成28年度に整備。あのときは10年間は建替えはないと思っていたが、平成29年度に有利な財政措置ができ、その他の課題を解決することも考え複合化とした。
- 【委員】 この先、スポーツセンターも建てかえて、それにもお金がかかるのか。
- 【委員】 検討はしているが具体化されていない。今すぐという話ではない。
- 【委員】 起債の関係について、集約化・複合化事業の対象は文化会館だけで、庁舎は対象とはならないのか。また、集約化・複合化事業は年限が限られているのか。
- 【事務局】 庁舎は市町村役場機能緊急保全事業のみ。集約化・複合化事業は平成33年度まで。
- 【委員】 平成24年度から検討が始まり、平成29年4月に事業が創設されたのに、庁内で実際に動いたのは平成30年1月。この9カ月の間、どんな議論をしてきたのか教えてほしい。
- 【委員】 平成29年度に新庁舎建設のための起債事業ができ、その情報を把握した段階から、いずれ建てかえる必要があるのであれば、有利な財政措置のある期限のうちとなった。そこで、秋の地域懇談会で市民に市役所や文化会館の老朽化の実態や不便さを説明し、意見をもらい、1月から2カ月余りで集中的に議論して基本構想をまとめたが、ちょうど市長選挙が挟まり、5月に市長が決まり、その後基本構想を公表した。
- 【委員】 今となってはそこを議論しても仕方ないが、市民にしっかり情報提供し、しっかり考えていただくことが必要だったのだろうと思う。今後は議論経過も含めしっかりと情報公開をしてほしい。
- 【委員長】 今後の対応をお願いします。他に意見等はないか。
- 【委員】 建築費は庁舎で約58億円を見ていて、合築だと、10%から7.5%の削減で5

億数千万円のマイナスになるので、それを差し引いて52億円が起債の対象となり、その0.9掛ける22.5%が交付税措置されるという認識でいいのか。

【事務局】 基本構想の13頁で説明する。庁舎の起債だけを考え、58億円とした場合、起債対象が51億円。51億円を借りると、利息を含め約60億円の返済。これに対し22.5%の交付税措置で14億円。交付税措置を差し引くと、実質負担は返済額で46億円プラス頭金の7億円。

庁舎の起債の22.5%だけを考えると14億円だが、文化会館を合築することで、文化会館部分は、複合化の起債で交付税措置率50%と有利な起債となるため、これよりも交付税措置があると見込んでいる。

【委員】 58億円というのは庁舎だけか。また、地方交付税の14億円は何年間か。

【事務局】 文化会館も含めているが、庁舎と文化会館の面積分けがまだできていないため、庁舎の起債だけで基本構想は説明している。また、30年返済のため交付税措置は30年間と考えている。

【委員】 建てた後の維持費は幾らぐらいを見ているのか。

【事務局】 現在の維持費は、庁舎と文化会館を合わせ6,000万円から7,000万円。

【委員】 その20から30ぐらいが毎年軽減されるということですね。

【委員】 交付税措置は庁舎だけならもらえないのか。

【事務局】 庁舎単独でも市町村役場機能緊急保全事業の対象になるが、合築によってより集約化・複合化事業の有利な起債を借りられる。

【委員】 合築した場合は、2つの起債が借りられるということ。庁舎だけで58億円ではないが、勘違いされる。最大9,800平米で、それぞれ面積は出ているため、面積や金額がなくても、庁舎と文化会館に分け、わかりやすく示せないか。

【事務局】 部会で機能を検討しているが、機能が決まった段階で、庁舎の面積はこのぐらいとい規模が出てくるので、そのときには二つの起債を活用した概算費用を出したい。

【委員】 庁舎は、22.5%の交付税措置がある。合築することによって文化会館は50%が入るということだが、具体的な数字が出せなくてもどういふうに支援を受けられるかわかりやすい図にしたほうがいいのではないか。

【委員長】 努力していただき、それでは、次に進める。

【委員】 その前に、この委員会とは別に、新庁舎を建てるかどうかについてこれから市民との話し合いをするのか。

【委員】 今後、来年3月から5月に基本計画素案ができた段階で皆様方にお知らせし、パブリックコメントで意見をいただき、基本計画策定の最終判断をしたいと考えている。

【委員】 富良野にお金がいっぱいあれば、建てることに誰も反対しないが、そこま

でのお金はないと聞いている。今、医師確保やJR問題もあるが、お金がないからできないとはならない。今回、補助金（起債）があるから急ぐのはわかるが、市民の意見を聞いていけば間に合わないから検討委員会で進めようという感じは問題があると思う。また、20億円以上であれば富良野の業者はとれないと聞いている。20億円ずつにすれば、富良野の業者がもうかるし、富良野にお金が落ちる。それなら、今の58億円が70億円かかってもいいと思う。

今後、富良野は随分変わっていくのではないか。今後のことを踏まえると、建ててもいいが、補助金（起債の交付税措置）は要らない、富良野は富良野で考える、地元の業者を使って20億円ずつの工事でやるという発想になったら、どちらが今後の富良野にとっていいのか。

【委員長】 ほかの事業との関連もあるだろう、あるいは、市民主体でなければいけないということだと思うが、事務局から何かあるか。

【事務局】 起債に間に合わせる必要がないなら、今が検討時期ではない。平成24年度から細々と検討していたのは、お金のめどが立たず、いつ建てるかわからなかったからである。今後どのくらいお金をためれば検討時期が見えるかわからないが、それまで庁舎が耐えられるのか、災害時に対応できるのかとなる。今、国の支援を受けないことを選択すると、後々、市の持ち出しを多くして建設することになる。財政負担を減らし、最少の経費で最大の効果を上げることが使命であり、起債がある今の時期に進めるべきと考えている。

【委員】 58億円という金額は他の事例を参考に最大で見積もったもので、全て使えるという発想ではない。よその庁舎を見て、広くしよう、便利なものがあるからうちでもという発想でもなく、常日ごろ、この金額を削減したいと考えて、職員ワーキンググループの部会では議論している。

【委員】 財政を考え、いろいろなところに負担を強いることなく建てられる規模をどのように考えているかという質問があったが、財源の予測等を含めて、民生費などに対しては今までの割合を崩すことなく庁舎建てかえに向かうという説明があってしかるべき。そうでなければ、平成24年度から検討を重ね、基金を積んで始めた本来の根拠が失われる。納得できるものがなければ、議会に持ち帰ることができないが、いかがか。

【委員】 市としては、今までにも起債を返済しながらいろいろな事業をやっているし、庁舎建設の償還額も含めて健全財政を守っていけるという前提でお話している。新庁舎事業NEWSのV o 1. 2で示しているように、償還は平準化できると考えている。前回の財政については付帯意見という話があったが、庁舎建設の償還額含めて対応できると思っている。これを前提に話をしてもらって構わない。

- 【委員】 医師確保の問題にもきちんと対応できるということか。
- 【委員】 医療や子育てなど、やらなければいけない施策はいろいろあるが、それも踏まえて対応できると判断している。
- 【委員】 一般市民が詳細を余り知らないのは情報が提供されていないからだ。庁舎を建てかえなければいけないことには異存はない。しかし、財政的な裏づけがなければオーケーを出せないし、軽々しくオーケーを出したら既成事実に加担したのだと言われる。
- 財政概要に今までの数字が出ているが、物件費、維持改修費、補修費、積立費、貸付金、繰出金など、平成36年度から全部同じ数字なのは理解できない。約14億円の繰出金がある中、国保、介護、後期高齢者は現時点でも一般会計から約7億円を繰り出しているが、今後、税金を上げるしかなくなり、市民の負担がふえる。将来推計や人口動態がはっきりしないと判断できず、市民から財政は大丈夫なのかと聞かれたとき、当局が大丈夫と言うだけで市民が納得してくれるのか。推計をつくり、すぐに出してほしいが、いかがか。
- 【事務局】 すぐというわけにはいかないが、きちんとした試算はしなければならないと考えている。
- 【委員】 平成31年度から35年度は数字の確率はかなり高くなっている。ただ、それ以降は、事業費の推移が見切れず、確実な数字は言えないが、平成35年までの数字は出ているので、これで推移していくと見ている。
- 【委員】 それがわからないのに、58億円もの大きな買い物はできないのではないか。大事なのは市民の不安を払拭すること。これは富良野の将来を決める大事業で、しかも、次の世代のため。一生懸命考え、アイデアを出し合う、ここはそういう場であるのに、将来的な数字も出せないのに、大丈夫と言われて、はい、そうですかと言うわけにはいかない。
- 【委員】 悪いが、財政の話を出したら進まない。結局は、年間1億7,000万円返すことでサービスが削られることを不安に思っている。ただ、今までも年間で約1億円近くの積み立てをしているし、ほかの借金が少しずつ減っていくから、その分で賄えるとわかりやすく説明してあげれば不安は減るのではないか。
- 【委員】 財政も関心事の一つで、委員会としても説明責任は果たさなければいけない。不安が渦巻いている中、行政として政策的に大丈夫ということをも市民に見せないと納得できないのではないか。それができないと何のための検討委員会なのかとなる。建てても市民生活に影響しないということも含めて検討するのか、それによって全然違うと思う。
- 【委員長】 確認だが、新規事業も含めて、全体を検討する会は市にないのか。
- 【委員】 三役や部長が入った庁議のことではないか。

- 【委員長】 そこには市民は入っていないのか。
- 【委員】 入っていない。きょう、委員長に課せられた課題は、委員会として合築で建てる合意を得ることだったのではないかと思う。しかし、それは拙速だと思う。緊急の諸課題が解決できるのかどうか、来年度の予算編成を市民に知らせ、健全にやれる、これだけ借金はするが、30年後には庁舎と文化会館の支払いも健全に終わると知らせない限り、結論を出すべきではないのではないか。
- 【委員長】 きょうの取りまとめの方向性の話があったが、行政側がこう思っているから、こうまとめようということはない。それは信念として言える。ただ、貴重な時間なので、皆さんの意見を集約し、まとめたいとは思っている。
- 【事務局】 急ぐべきではないということについて、国の支援があるうちに進めること、それが市の負担を少なくすることだという大前提がある。仮に交付税措置14億円とすれば、14億円ぐらい多く負担しても、何年かかけても検討したほうが良いと判断されるか、確認させていただきたい。
- 【委員】 財源の問題にも触れれば、市民からの反応もたくさん出てくると思う。財政計画について、払っていくものについても出させていただきたい。
- 【事務局】 その資料はあります。（配付資料のNEWSのV o 1. 2「公債費（返済金）の推移」の表を示す。）
- 【委員】 これだけでは全然わからない。
- 【委員】 市の事業は、市民参加でつくった総合計画があり、毎年のローリングも加え、市民ニーズの変化も捉えながらやっている。これに影響がないという意味で財政の健全性は担保できると説明している。確かに、1億7,000万円の返済金があれば、医師確保ができ、医療費の助成ももっと拡大できるという意見もあるが、そうではない。庁舎を建てるための経費はほかに回せるわけではなく、それで混乱を招いている。総合計画、総合戦略に基づきやっていくが、影響を与えるものではなく、健全性を担保していけると言っている。
- 【委員】 財政の話が出ると我々では本当に判断しにくい。この委員会は、財政の担保から全てをやり、かつ、市民への説明も含め、責任を持つのか。それとも、庁舎を建設するにあたって、最善のものを検討して答申するのか。財政も担保し、市民に迷惑をかけるな、責任を持つと言うなら、判断する材料が何もなく、私は判断できない。
- 【事務局】 検討委員会の検討事項は、富良野の将来を見据え、庁舎と文化会館の老朽化やさまざまな課題を解決するためにどうあるべきかという最善策を検討することで、市の全ての事業への影響や財政のことまでを検討事項としていない。
- 【委員】 つまり、ここで検討はするが、最終的に判断するところがあるのか。

【事務局】 最善策を踏まえ、市が決定し、パブリックコメントや説明会で、市民意見聞く場を設ける。ここで決めたことだから、委員の責任だとは考えていない。

【委員】 国から補助（起債の交付税措置）があり、そのほうが得策というのはわかるが、富良野にはそこまでお金があるのかということで、抱えている問題もきちんとやれると言うなら問題はない。そこは議会などいろいろなところで話し合うのだろう。

また、欠席委員からの意見書は委員長に行っているのか。

【委員長】 来ているので、後ほど皆様に開示する。

それでは、理解いただけただけということで次に移る。ここで5分休憩する。

[休 憩]

【委員長】 再開する。まとめ方が中途半端だったようなので、再度伺うが、単独建てかえ及び合築に関し、合築の優位性について理解したとしてよろしいか。

【委員】 異存はないが、庁舎は緊急対策債があり、文化会館は集約化・複合化事業の補助金（起債）を使うのだから、11ページの表は分けた記載のほうがわかりやすい。

【委員長】 検討をお願いしたい。

イ) 新庁舎の位置について（基本構想11頁参照、資料2）

【委員長】 続いて、イの新庁舎の位置についてを議題とする。

【事務局】 基本構想11頁、及び資料2により説明。

- ・新庁舎の位置は、防災の観点や市民の利便性、まちづくりの整合性、事業費を含む経済性など、さまざまな視点から検討する必要がある。
- ・候補地の抽出基準を三つ設定。
 - ①市内中心部に位置
 - ②現庁舎及び現文化会館の敷地面積（17,117平米）と同程度の敷地
 - ③市有地（既に市有地で今後購入するもの含まず）
- ・候補地としては二件あったが（旧中央保育所の跡地、駅裏の人材開発センターのグラウンド）抽出基準を満たさず選定に至らなかった。
- ・三つの基準を満たしている現庁舎位置が一番望ましい。
- ・現庁舎位置を選定した場合の課題は、ハザードマップで浸水50センチの区域で、空知川が氾濫した場合の水害などの危険性。現庁舎は現在もかさ上げしているが、それでも地下室の電気・機械室が浸水すると被害を受ける。想定外のことも考えなければならないが、2階以上で防災拠点機能を発揮できる建物構造にすることで水害対策をとれると考えている。

【委員長】 各委員から質問等はないか。

【委員】 位置を決しないことで誘致活動などいろいろなことが起こってくるので、この時点で現庁舎のところに建てるのだと市民にアピールすべきだと思う。

【委員】 現在の位置は市民に親しまれ、浸透されている場所という歴史的な背景がある。しかし、新庁舎を建てるに当たっては市民の利便性だ。ここはJR駅から遠いし、バスが来ているわけでもなく、交通の接続点になっていない。反対しているわけではないが、市民に親しまれ、浸透しているという理由は適当ではなく、削除したほうがいい。

また、市の車が水没しても話にならないので、敷地全体のかさ上げが必要。

【委員】 この場所が一番妥当だと思う。

余談だが、市民からは、信金のところを借りて、駐車場は裏の公園を、また、富良野高校のところを空き地になったらそちらに引っ越してもいいのではないかという話もある。この場所が悪いと言っているのではなく、そういう意見もあったということ。

【委員】 私の周りは、建てるのだったらここではないだろうという意見のほうが多い。また、人材開発センターグラウンドの一部を貸し付け予定なら、市役所をそちらに建て、今の市役所のところを貸し付けてはと思うが、いかがか。

【委員】 借りることは地域懇談会でも意見があったが、窓口業務が信金と重なり合うし、駐車場が狭いということも含め厳しいと話をしている。また、交通の話があったが、JR駅は近くないが、バスは近くに来ているし、50年間ここに市役所があったという事実から、市民に浸透している歴史的背景はある。

浸水については、1,000年に1回の雨で二、三メートルというのは現実的ではない。100年に1回の雨は技術的にカバーできるので、新庁舎はここにしたいほうがいいと考える。

【委員長】 まとめると、新庁舎の位置についてはおおむね理解できる、ただし、利便性あるいは水害等の問題は少し文言を検討する必要がある。

ウ) 新庁舎に備える機能について（基本構想6～8頁参照）

【委員長】 次に、新庁舎に備える機能について、事務局に説明を求める。

【事務局】 基本構想6～8頁、及び別紙2により説明。

- ・別紙2は、基本構想の新庁舎に求められる機能6～8頁の内容を、検討する部会ごとに分けた表。部会の職員ワーキンググループは、機能に関連する部署で構成。検討機能が重なる部分があり。
- ・新庁舎に備える機能は職員ワーキンググループや市民ワークショップで12月中に検討結果をまとめるが、今回の意見を次回の報告につなげたい。

【委員長】 基本構想の新庁舎に求める機能について、担当委員から説明を受け、その

後、委員から意見等を伺う。

それでは、防災・セキュリティ部会担当の委員から説明願う。

【委員】 まず、災害に関し、100年に一度の水害を考え、発電機はできるだけ高層階に、パソコンのサーバーは2階以上に持っていきたい、また、自家発電に関しては、3日間、72時間の設備容量が必要という国の指導に対応したい。

セキュリティ機能では、文化会館と合築すると、執務室と文化会館を離して考えなければならない。土・日、夜の対応、また、文書やサーバーの管理を含め、職員はIDカードを使い、一般の方が立ち入れないような場所を設定することも必要。

また、文化会館は指定緊急避難所になっている。これを引き継ぐとすれば、指定緊急避難所としてどの程度機能を持たせるか、収容人数によって備蓄の量を検討したり、災害対策本部は2階以上で総合会議室を考え、電話線も引くなどを考えている。

【委員長】 続いて、窓口・行政事務部会担当の委員から説明願う。

【委員】 この部会では、窓口利用者の利便性が高くなるように、また、現庁舎での課題解決が新庁舎に求められる機能という発想で議論している。

現在の窓口カウンターは、座って相談するには足の入れ場がなく、車椅子対応もできない。また、つい立てがなくプライバシー確保が必要、ロビーやカウンターで相談・打ち合わせをしているので、最小限の相談スペースが必要。案内板もわかりやすくし、多くの市民が来庁する部門は1階に配置すべきだろうと考えているが、エレベーターが設置されれば、ひとり親の方などが相談に来られたときは逆に2階のほうがいいという意見もある。

また、ワンストップサービス窓口は、利便性が高い反面、集中すると待ち時間が長くなる。1階の見通しがきき、小規模なスペースであればワンフロアを考えて対応するほうがいい。確定申告や手続きが集中する時期は緊急的な窓口を用意しワンストップにするなど、フレキシブルな窓口機能も必要。

さらに、ペーパーレス化、会議室の確保、オープンデスクなど効率性を高めるユニバーサルレイアウトもあり、今後、職員数が減っていくことを考えると、効率的な机の配置したほうがよいと考えている。

【委員長】 続いて、市民活動支援部会担当の委員から説明願う。

【委員】 文化会館の大ホール機能、多機能・多目的スペース、市民活動支援の三つについて検討している。

大ホール機能は、演劇に特化する演劇工場の客席300席との差別化を考え、音楽に特化した600席程度のホールがいいと考えている。客席は可動式と固定式があるが、可動式は客席を動かし多目的に使える一方、可動席は人が動いたときに雑音やきしみ音が発生する。部会メンバーが砂川市と当麻町のホ

ール施設の利用状況等の調査に行くので、その後に最終的な判断をしたい。また、親子室の設置や、演ずる方々を考えた広く使いやすい舞台、現在の高価な緞帳は要らない、機材搬入口が非常に使いづらいため屋根を付け搬入しやすくしたいなどを考えている。

多機能・多目的スペースは、エントランスやロビーを活用した展示スペース、カフェや子どもたちが遊べるようなスペースもつくればよい。

市民活動支援の貸し館業務は、休みの日に文化会館の貸し館利用が多いので、セキュリティー面を考えつつ、市役所の会議室との共用も考えている。会議室は、可動式のパーティションで分けて使え、遮音性を確保し音楽リハーサルでも使えるようにしたい。

また、富良野ではビールパーティーが盛んで、料理教室を利用しておつまみ等をつくっているが、ケータリング方式で使っていただき、料理教室の講座はふれあいセンターの料理教室利用を考えている。各講座は、ふれあいセンターの講座と重複しているものがあるので、集約した使い方で整理できればよいと思っている。

【委員長】 続いて、建物構造部会担当の委員から説明願う。

【委員】 一番問題になっている耐震性は、官庁施設の総合耐震計画基準に基づき、震度6強に耐えられるものにする事で検討を重ねた。耐震、制振、免震の三つの中で、基本的には耐震構造で十分ではないかと考えている。ただ、コンピュータールームは免震構造にして揺れを少なくする案が出ている。

水害の対策で、1階フロアレベルをハザードマップ以上にすることだが、公用車が水没してはどうにもならないというご意見も踏まえ、敷地全体を盛り土することも考慮しながら今後検討していきたい。

また、直天井にして、照明器具などの落下の危険性を少なくしたい。

バリアフリー・ユニバーサルデザイン機能では、各種ガイドラインに沿った最低限確保し、それ以上のものは今後の検討課題。富良野は観光地なので、言語のユニバーサルデザインも考えなければならない。

省エネ・省資源機能では、高气密・高断熱性能は必須条件。外断熱工法や断熱サッシを取り入れ、屋上防水の耐久性、長寿命化等を確保し、空調負荷の軽減や、自然採光や自然通気による換気等、自然エネルギーの利用を基本としたい。ヒートポンプなどはイニシャルコストも考え検討を進めたい。

維持管理機能では、庁舎の耐久性、長寿命化、組織機構変化に対応するため、オープンプロア、OAフロア、ユニバーサルレイアウト、可動式の間仕切り壁等を研究中。民間活用では、文化会館部分の指定管理者が考えられる。

なお、建設手法については、地元に一円でも多くのお金が落ちることを念頭に検討しているが、法令等の縛りがきつく研究中。

【委員長】 これらは、次回詳細な検討をすることになるが、それに向けて、機能ごとに、各委員から意見等を伺う。

まず、防災拠点機能について意見等はないかい。

【委員】 北広島市の防災室は、ふだんは会議室に使い、すぐに対応できるようにしていた。無駄なスペースをつくらず、できるだけ共用にしなければいけないと思う。

【委員長】 次に、窓口機能について意見等はないか。

【委員】 窓口に来る方々の手続は大体決まっている。ぜひワンストップにしてほしい。市民が座っている間に、職員が次々と変わり手続を申し送りしたほうが満足度は高くなり、好印象が得られ、市役所の対応が変わったと言われる。ぜひ積極的に検討してほしい。

【委員】 手続にマイナンバーカードが必要だと言われ今に至る。マイナンバーカードを最大限利用する仕組みを検討していただきたい。

課としてまとまることも大事だが、仕事をするところと手続を受け付ける窓口をパーティションで区切って、課をネットワーク化するほうが良いと思うので検討してほしい。

【委員長】 次に、行政事務機能について意見等はないかい。

(「なし」と発言する者あり)

【委員長】 議会機能は、議会の委員会で検討し、次回に報告いただくので、次に、バリアフリー・ユニバーサルデザイン機能について意見等はないか。

(「なし」と発言する者あり)

【委員長】 次に、市民活動支援機能について意見等はないか。

【委員】 文化会館の大会議室は、ビールパーティーで利用している。タマリーバは200人くらいしか入らず、収益事業は難しく、調理室がない。収益を出すには三、四百人規模がほしい。また、料理はケータリングで別のところから持ち込むとのことだが、やめてほしい。調理室が横にあれば非常に使いやすいし、人が集まるようにとするなら料理教室を二、三十人は入れるようにしてほしい。

【委員長】 今後の重要検討項目として扱っていただきたい。

市民の利用スペースについて意見等はないか。

(「なし」と発言する者あり)

【委員長】 次に、セキュリティー機能について意見等はないかい。

(「なし」と発言する者あり)

【委員長】 次に、省エネ・省資源機能について意見等はないか。

【委員】 富良野ではRDF化をやっており、ハイランドふらので利用しているが、なぜこれが抜けたのか、その辺の考えを教えていただきたい。

【委員】 実用化に耐え得るのなら、富良野独自で編み出した技術でもあるので、活用したいが、燃料の量も検討しなければならないので、今後の課題とご理解いただきたい。

【委員長】 次に、維持管理機能について意見等はないか。

（「なし」と発言する者あり）

【委員長】 民間活用については、指定管理者制度の導入のほか、建築事業手法の関係も出てくるので、次の議題で協議したい。

【委員】 一つお願いがある。利便性も含め、全てを網羅できれば一番いいが、建築コストに大きくはね返るので、我慢する部分もあると思う。将来的に人口は間違いなく減るため、しばらくは窮屈でも、将来の人口減を考えて我慢するなど、見きわめていただきたい。さらに、この庁舎に長くいるのは職員であるので、市民が一番なのはもちろんだが、職員が気持ちよく働ける環境をつくってあげることも大事だと思う。

【委員長】 その他、全体を含めて意見はないか。

（「なし」と発言する者あり）

【委員長】 多くの意見があったが、各部会、ワーキンググループでの検討を含め、次回に報告を受け、方向性を決めていきたいと考えているので、よろしくお願ひしたい。

エ) 建設事業手法について（基本構想15頁参照、資料3-1、資料3-2）

【委員長】 最後に、建設事業手法について、事務局より説明をお願いする。

【事務局】 建設事業手法について、行政が主体的に進めるか、民間資金を活用して進めるか、個別・具体の手法は事業スケジュールを勘案しながら市で決定するとして協議していただきたい。

【事務局】 資料3-1、資料3-2により説明。

【事務局】 ポイントは、国の財政支援を受けることにより市の持ち出し、負担を少なくするための「スケジュール」と「地元企業の参画」。「財政負担抑制」も重要だが、今回は国の財政支援を受けられるか受けられないかの方が大きい。

また、民間主体の方式は、そもそも受注者がいるかという課題がある。十分な時間をかけて受注者を選定することが必要だが、それに時間や費用をかける余裕がなく難しい。今回、国の支援を受けるのに間に合うのは行政主体の従来方式のみとなるが、事務手続を短縮すると、DB方式やECI方式も可能性がゼロではない。なお、民間主体のPFI方式やリース方式のスケジュールは、受注者がすぐに見つかった場合で記載している。見つからない場合はもっと長い期間がかかる。

【委員長】 今の説明を踏まえ、各委員から意見等はないか。

【委員】 わくわくホリデーホールの視察の際、短期で建てるならリース方式は一つの手だ、安くできるという説明を受けて帰ってきたように思う。

【委員長】 一緒に行かれた委員から発言をお願いしたい。

【委員】 確かに、リース会社の方が建設費自体は安く上がると説明されていた。ただ、償還期間が短くなるので、単年度のリース料の支払いは多くなるとも聞いた。

【委員】 今積み立てている基金を来年まで積み立てると約7億円となるが、これは庁舎と文化会館とスポーツセンターに対するものなので、全て庁舎に使っていいものなのか。

スポーツセンターについて、市長は、次期総合計画の中で検討していくと明言したので、建てかえも考えなければいけないのだとすると、基金はなるべく使わず残しておく必要があると思う。民間主体のPFI方式やリース方式で初期投資を抑えるという考えは必要なのだろうと思った。具体的に、そのことも考えて検討したほうがいいという気がする。

【委員】 お金を借りると、利息も含め、何億円も変わってくるというシミュレーションがある。7億円で先に払ったほうがいいか、それを貯金で貯めておいて、借りたほうがいいか、はっきりとは言い切れないが、後々を考えると先にあるお金で払っておいたほうがいいと思う。

【委員】 行政が主体で、起債や補助事業を活用すると、基準が変わるので、民間が建てることで建築コストを相当抑えることができると視察先で伺ったように思う。リース方式だと、民間が建てるので、建築コストはさまざまな面で安くできる、市が建てるにはさらに厳しい基準を満たすために高額な建築費になる、そうした比較が出てこない判断のしようがない。ただ、富良野市でそれが可能かどうかは論点で、可能でないのであれば、行政主体のものしかない。

【委員】 確かに請け負っている大和リースの方は、民間の発注なので、公共事業とはならないため、建築コストは下がると言っていた。これに対し、高上がりになるのではないかという疑問があったが、20億円くらいを6年間で払っていき、その後に譲渡され、建てた費用に利息もついて、所有している間の固定資産税も市に請求される。発注段階でのコストは安いと受けとめたが、総体として安上がりかどうかはわからない。

また、富良野市に当てはめた場合、果たして手が挙がる業者がいるかどうかという、厳しいのではないかと思う。

【委員】 これは、地元の建設企業は入れるのか。

【事務局】 地元企業の参画は非常に重要な視点。民間主体だと、恐らくそこまでの指定はできない。行政主体だと、大手が入ってきても、地元企業とJVを組む

という条件をつけられる。行政主体のほうが地元企業は参入しやすくなる。

【委員】 ストレートに言って、可能性があるのは従来方式とDB方式の二つか。

【事務局】 現実的には従来方式で確実に実施することが優位ではないかと考えている。ただ、設計と施工を一緒に発注することで事前に建築資材を確保できる優位性があるDB方式について、スケジュール等を勘案しながら検討しなければならないと思う。ただ、ここでは、従来手法とするのかDB方式にするのかではなく、行政主体でやるのか民間主体にチャレンジするのかという方向性を出していただきたい。

【委員】 難しい問題が多々あるので、方向性は決めず、手法を知っていただくぐらいにして、どういったメリットやデメリットがあるのか考えていただければいい。公共工事の入札及び契約の適正化の推進についてという国交省からの通達があり、起債を借りる以上、この基準に基づいて入札を執行しなければならないので、地元企業が入れるかも含めて研究中。現段階においては、事業主体が富良野市であることによる優位性は認識していただけたかと思うが、次回までに建物構造部会でも検討したいと思う。

【委員長】 それでは、次回、建物構造部会から資料を提出していただき、その段階で行政主体か民間主体かを決めたいと思う。

【委員】 ECI方式は設計段階から建設業者に協力依頼をするが、金額も出ていない段階なのに、どのタイミングで建設業者を決めるのか。

【事務局】 実施設計の業者と施工業者は別だが、協力業者として実施設計の段階で業者を選定する。施工業者は、実施設計ができた後に工事に取りかかるが、協定を結ぶことで、その前段でもノウハウを設計に取り入れるという新たな事業手法である。

【委員】 何社も来ると思うが、何を基準にどうやって選定するのか。

【事務局】 基本設計の段階で事業費が出るので、それをもとに選定し、協定を結び、実施設計ができて、この事業費でいいか交渉して施工に入るといった特徴がある。

【委員長】 それでは、このことについては次回に決めることにしたい。

次に、きょう欠席の委員から意見書が上がっているので、ここで配付し、事務局で要点をまとめて紹介していただきたい。

【事務局】 欠席委員から意見書の要点読み上げ紹介。

【委員長】 これについて、市の委員から何かあればお願いしたい。

【委員】 まず、後年度負担については、市民への情報提供も含め、他の事業に影響がないよう努めるという考え方に変わりはない。

次に、耐震化については、耐震化だけでは多くの課題の解決にはならないと考えている。

次に、委員会の構成について、基本構想を示して議論していることもあり、市議会議員の皆様は利用者という立場もあるので、あくまで検討一体型でやりたいと考えている。

次に、パブリックコメントについては、基本計画を策定した後、検討の是非を含めて行うことを予定している。

次に、老朽化した庁舎の建てかえは、委員会としての結論を認め、反対はしないが、改めて基本構想を見直しすべきではないかということだが、国の財政支援の活用も含めて検討することを話している。財政支援が必要ないと判断されるのであれば、今が庁舎建てかえの検討をする時期ではない。改めて長時間かけて基本構想を検討したいと思う。

【委員】 第1回からあったが、この検討委員会はどこから始めるか、庁舎を建てかえることありきで検討しているのか、どうするのかということから始めるのか、どこまで決めるのかということだと思うが、そういったことがここに詳しく書いてあると思う。

判断は難しいと思うが、委員会として建てかえることを認めたように聞こえてしまうということだ。市の考えがあって、こうしなければいけないというのはよくわかるが、それに対して、普通の市民感覚からどこまで言っているのか。ここでうんと言っていて、あなたが決めたからでしょうと後で言われると困る。覚悟はあるけれども、本当に建てていいのか悪いのかという話だ。ただ、補助金（起債）が間に合わないという話もあるから、何とも言えない。

【委員】 意見書に、委員会を終了し、答申することを求めるとあるが、これは今後もないということなのか。このままだとお互いによくないので、次回は参加してもらい、口頭で説明したほうがよりフェアだし、理解し合えるのではないかと思うが、いかがか。

【委員長】 この内容は委員の皆さんには理解していただけたということで、本人に対しては次回にこの場をかりて説明してもらおう形をとりたい。

【委員】 これはこんなふうにしたらどうだという提案の一つだと思うので、絶対にしてくれという話ではないと思う。ただ、次に出席されたときにはきちんとしたほうがいい。

【委員】 意見書の中にある財源の関係で確認したい。

必要な財源を明確にするべきだと言ったが、市は市民に迷惑をかけることはないと言い切っていた。ただ、出していただいて検討を加えるほうがいいと思うが、どうか。

【委員】 ほぼ確実なのは5年後までである。その後は、それが確実かという難しい面があることはご理解いただきたい。また、市民への周知の仕方もあるし、紙面の都合もあるので、考えられる範囲で出したいと思う。

また、冒頭にNEWSのV o 1 . 2を折り込んだほうがいいという話があったが、同じ記事が広報に入っており、今回は折り込まないので、ご理解願いたい。

【委員】 庁舎建設の情報を丁寧に市民に公開してほしい。次の1月号には新しい情報載せる、あるいは、特集を組むなど、なるべく丁寧に情報発信をしていただきたい。

【委員長】 対応をよろしく願いたい。

【事務局】 この意見書については、こちらでも疑問に感じているところがある。

10月22日に市民活動支援部会が利用団体との意見交換を実施したことについて、検討委員会と市民活動支援部会は同時並行で検討を進めており、検討の段階で利用者の文化団体に機能について意見もらうことは重要なこと。このことは理解をいただきたい。

また、地域懇談会でも、財政支援があるのならいち早く進めてほしい、設計はどうなっているのかという意見もいただいている、反対意見ばかりではないことをご理解いただきたい。

【委員長】 それでは、本日の議事は以上とする。

5. その他

【委員長】 今後の予定について、事務局から説明願う。

【事務局】 第4回検討委員会の会議は、来年1月22日火曜日に開催。各委員の日程調整をお願いしたい。次回は、部会の検討結果、報告を受け、新庁舎に備える機能についての検討、また、機能を備えた場合の事業規模、概算事業費についても検討したいと考えている。

その他、市民ワークショップは、第2回目を12月4日に開催し、職員ワーキンググループとの意見交換として進める予定。

【委員】 なぜ12月はやらないのか。

【事務局】 議会もあり日程確保が難しく、次回の議題の職員ワーキンググループ検討結果報告が12月迄で部会も動いているので、ご理解いただきたい。

【委員長】 全体を通じて何かあるか。

(「なし」と発言する者あり)

6. 閉 会

【委員長】 本日はこれで終了する。

これから年末の忙しい時期になるが、新年にまたお会いできることを楽しみにしている。

【事務局】 以上で第3回富良野市新庁舎建設検討委員会を閉会する。